

# Oracle Portal 10g Release 2 (10.1.4) 製品 概要

オラクル・ホワイト・ペーパー  
2006 年5 月

# Oracle Portal 10g Release 2 (10.1.4) 製品概要

## 概要

今日の企業は、自社の IT 基盤に企業情報ポータルをデプロイすることで他社との競争に打ち勝ち、生産性を向上させています。企業情報ポータルは、企業情報と連携したシングル・ソースの役割だけでなく、日々のビジネスを遂行する際の中心となるよう設計されています。Oracle Application Server のコンポーネント Oracle Portal には、世界に通用する企業情報ポータルの構築、デプロイ、メンテナンスに必要な統合ソリューションが含まれています。

## はじめに

Oracle Portal では、ポータル Web インタフェースの作成、情報の公開と管理、動的データへのアクセス、ポータル・エクスペリエンスのカスタマイズに必要な様々な宣言環境を、J2EE ベースのアプリケーション・アクセスのための拡張可能なフレームワークと組み合わせています。Oracle Portal を使用することにより、E-Business において、従業員、パートナ、サプライヤが各コミュニティに適したビューを作成できるうえ、必要な情報へ接続することができます。

## ポータルの簡単な構築と管理

Oracle Portal のウィザード・ベースのインタフェースにより、ポータル利用者は自身の技術的知識を活かしながら、ポータルの作成、進化、管理のすべてを Web ブラウザから実行できます。ユーザーやグループの管理、ページやテンプレートの設計、コンテンツの公開など、一般に IT のボトルネックをもたらすタスクをビジネス・ユーザーに容易に委譲することができます。Oracle Portal を使用して、ビジネス・ユーザーは次のことを実現できます。

- **ポータルの迅速かつ確実な構成。** Oracle Portal のページ設計および開発機能により、コンテンツが豊富で安全なポータル・ページを作成するための強力な環境が管理者、ページ・デザイナー、エンド・ユーザーに提供されています。編集ダッシュボードでは、ポートレットやコンテンツをページに追加しページのプロパティを更新できるブラウザ・ベースのコントロールと複数のビューを提供します。統合されたスタイル・マネージャにより、デザイナーはポータル・ページやページ領域に適用する色やフォント・スキーマを定義できます。HTML、コーディング、構成ファイル編集に関する知識などは必要ありません。

- **ページやポートレットのカスタマイズによるオーダーメイドのエクスペリエンス。** ページ・デザイナーと管理者は、ユーザーによるページおよびポートレットのカスタマイズ・レベルを、シンプルなポートレット非表示/表示/再配置権限から完全なページ構築権限まで、様々なレベルでコントロールできます。エンド・ユーザーは、使用頻度が低いポートレットの閉鎖など、ポートレットのコンテンツやフォーマットを簡単にパーソナライズできます。
- **セルフ・サービスのコンテンツ公開、管理およびアクセスの享受。** 簡単なウィザードにより、ビジネス・ドキュメントのアップロードから属性の設定、ページへの公開まで、その手順が示されます。基本的に、ファイル、シンプル・テキスト、ハイパーテキスト・リンク、サーバー側のスクリプトを含め、どのようなタイプのコンテンツでも公開できます。付属のリッチ・テキスト・エディタによって、ブラウザで直接コンテンツのオーサリングがサポートされるため HTML の知識は必要ありません。ページ・デザイナーが設定したページとページ領域のプロパティは、コンテンツを自動的にフォーマットし、適切な色、フォント、位置、位置合せで表示します。ページ自体は自由に作成することも、慎重にコントロールされたコンテンツ分類法に従って作成することもできます。
- **デスクトップからのコンテンツの公開。** ファイル・タイプのコンテンツは、Web-based Distributed Authoring and Versioning (WebDAV) プロトコルを介して Oracle Portal に公開できます。ユーザーは、コンテンツ、ファイル、フォルダをポータル・ページとデスクトップ間でドラッグ・アンド・ドロップできます。ファイル・タイプ・アイテムも、開く、編集する、保存するなど、MS Office 2000 などの WebDAV デスクトップ・アプリケーションから直接実行できます。オラクル社のデスクトップ・クライアント Oracle Drive を使用すると、充実したコンテンツ管理操作をカスタムの右クリックで開くメニュー・オプションを使用して、デスクトップから直接実行することができます。
- **コンテンツの分類と管理。** ポータル管理者は、コンテンツ、コンテンツの属性ならびに属性値の管理方法についてポリシーを設定します。下書きモードとプレビュー、コンテンツのルーティングと承認、項目のバージョン・コントロール、チェックインとチェックアウト、自動公開と有効期限、自動インデックス作成機能などの付加機能は、コラボレーションによるドキュメントの作成をサポートし、コンテンツ管理タスクや公開項目の検索を効率化します。コンテンツ中心の編集モードにより、複数のドキュメントに対する一括操作がサポートされます。
- **Pixel Perfect ユーザー・インタフェースの作成。** ページ・デザイナーは、ページ・スキンと HTML ベースのコンテンツ・レイアウトを使用して、複雑な JavaScript と Flash 動画を使用した動的なユーザー・インタフェースを開発することができます。ポータルのテンプレート、ナビゲーション・ページ、スマート・リンクなどにより、ナビゲーション・バーやパナーなどの標準ユーザー・インタフェース機能の構築が容易です。さらに、HTML ファイル・コンテンツを正しい位置に表示するようポータル・ページを構成できます。

- **構造化コンテンツと非構造化コンテンツの検索。** 拡張検索機能はポータル環境に直接組み込まれています。Oracle Portal のリポジトリ内で管理されるドキュメントとコンテンツには、フルテキストのインデックスが付きます。付属のポートレットから非定型検索を開始するエンド・ユーザーは、コンテンツ属性を使用して検索範囲を指定できます。検索結果には、公開コンテンツと非公開コンテンツがありますが、ユーザーにアクセス権があるコンテンツのみが返されます。Oracle UltraSearch との統合により、リモート Oracle データベース、IMAP メール・サーバー、Web サイト、ファイル・システムなどの外部データ・ソースにアクセスできます。
- **多言語コミュニティへのデプロイ。** ウィザード、ダイアログ・ボックス、メッセージ、ヘルプ・トピックに表示されるテキストはすべて、29 種の言語で表示できます。コンテンツ所有者は、コンテンツ項目の複数の翻訳をロードすることができます。

## 必須アプリケーションおよびコンテンツを 1 つのインタフェースで提供

Oracle Application Server には完全なサービス・セットが含まれています。そのすべてがポータル環境を介して、完全なソリューションの一環としてデプロイできます。Oracle Portal を使用することで企業クラスのポータルを簡単に構成し、次の利点を得られます。

- **組み込みビジネス・インテリジェンスの利点。** Oracle Business Intelligence との統合により、強力なビジネス・ダッシュボードと企業データ上に主要なパフォーマンス指標を構成できます。ワークリストとワークブックのコンポーネントはポートレットとしてポータルで簡単に公開することができ、チャート作成、レポート作成、ドリルダウンとピボットを含め、エンド・ユーザーの本格的なカスタマイゼーションをサポートします。
- **基幹業務アプリケーションの統合。** Oracle eBusiness Suite、PeopleSoft、JD Edwards、Siebel、SAP など、基幹業務アプリケーションで管理されるデータは、ポートレットという形でポータル・ユーザーに表示できます。統合のオプションには、デフォルトで使用できるポートレット、ブラウザ・ベースのウィザードで定義されたポートレット、Oracle JDeveloper および Oracle Portlet Factory を使用して構築されたカスタム開発のポートレットも含まれます。
- **ビジネス・プロセスとの相互作用。** ポータル・ユーザーは、定義済のワークリスト、タスク分析、ポートレットのレポートを介して、ビジネス・プロセスとのやりとりやプロセスへの参加ができます。プロセス自体は、Oracle BPEL Process Manager 内で、または Oracle Portal のネイティブ・コンテンツと管理 Oracle Portal のネイティブのコンテンツ内で定義、管理できます。

- **外部システムからのデータの公開。** ビジネス・ユーザーは、オラクル社のブラウザ・ベースのポートレット開発ツール Oracle Omniportlet を使用して、Web サービス、XML、SQL、Web ページ、スプレッドシートなど、様々なデータ・ソースに簡単に接続でき、ルールやフィルタリング条件を定義すること、視覚化を適用すること、およびポートレットとして公開することができます。ビジネス・ユーザーは、ウィザード主導の Web Clipping Portlet を使用して、既存の Web サイトからコンテンツ、機能などを視覚的に捕捉してポートレットで表現できます。
- **ポートレット間の通信。** ポートレットをまとめて接続し（パラメータのパスとイベント・サービスを使用して）、個々のシステムから取得したデータを統合する簡単な複合的アプリケーションを生成できます。ポートレットを束ねることにより、あるデータ・ソースのデータを使用して、他のポートレットやページのコンテンツや表示を取得することができます。
- **Oracle Portal Developer Kit を使用したカスタム・ポートレットの開発。** Oracle Portal Developer Kit (PDK) を使用することで、開発者はカスタム・アプリケーション内にデータ呼び出すカスタム・ポートレットを構築できます。PDK とポートレット・コンテナは、WSRP（ポートレットの相互運用性を確保するための Web サービス標準）を介してポートレットにアクセスできる JSR-168 標準準拠の Java を使用したポートレットの開発をサポートします。さらに、ポートレット・ウィザードを Oracle JDeveloper と併用してポートレットの開発とデプロイを促進できます。
- **ワイヤレス・サポート。** ページ構造とコンテンツを MobileXML に転換して、モバイル・デバイスとワイヤレス・デバイスで使用するためにページを構成することができます。ページ・デザイン・ツールの補助セットを使用して、ワイヤレス・ユーザー専用のポータル構造体を構築することもできます。
- **拡大する Catalog からのパートナー・アプリケーションの選択。** Oracle's Partner Network (OPN) には 120 以上のパートナーがあり、Oracle Portal の顧客に対して補助アプリケーションまたは付加価値サービスを提供します。OPN の Solutions Catalog には使いやすいインタフェースもあり、各パートナーだけでなく 400 を超える使用可能なポートレットに関する情報にアクセスできます。Oracle Partner Network の詳細は <http://solutions.oracle.com> を参照してください。また、Solutions Catalog にアクセスするための情報もあります。

## オープン・アーキテクチャでの相互運用性の保証

Oracle Portal は、オープンな標準規格への準拠、サード・パーティ製アプリケーションとの統合機能、パートナー・テクノロジーとサービスの使用により、あらゆる種類の情報へオープンかつ容易にアクセスできます。Oracle Portal では、次により簡単に相互運用性を確保できます。

- **オープン・フレームワーク (ポートレットとプロバイダ・アーキテクチャ) の構築。** Oracle Portal は拡張可能なフレームワークを提供して、Web ページ、アプリケーション、ビジネス・レポート、複合的なコンテンツ供給などの Web ベースのリソースを再利用可能な標準情報コンポーネント (ポートレット内) に統合します。また、ポータルには、シングル・サインオン、コンテンツの分類、企業情報検索、ディレクトリの統合、アクセス制御など、追加のサービスがあります。
- **業界標準準拠のソリューションによる投資の保護。** Oracle Portal は、HTTP、XML、SOAP などのオープンなインターネット標準規格をサポートすることで、リモートなアプリケーションの統合をサポートします。Oracle Portal は、WSRP 製品を介して公開されたポートレットの消費をサポートします。さらに、Web サービス、JSP (Java Server Pages)、Java Servlets、EJB (Enterprise JavaBeans) などの J2EE ベースのコンポーネントをコードを追加せずに、ポートレットとしてポータルに組み込むことができます。
- **様々なタイプのプラットフォームへのデプロイ。** Oracle Application Server は、Linux、Windows、Solaris、HP-UX、AIX、Compaq Tru64 を含め、ほとんどの一般的な UNIX プラットフォームで使用できます。
- **API の完全なセットと Event Framework を使用した拡張。** Oracle Portal には、セキュリティ、コンテンツ管理、ポータル・ページ、検索アプリケーション・プログラミング・インタフェース (API) およびアプリケーション・レベルで Oracle Portal コンテンツのリポジトリを拡張できるイベント・フレームワークの完全なセットが含まれています。
- **ホスティング・サポートによるポータルの連合化。** Oracle Portal は、複数の組織をホストするコスト効率が高く管理の容易なソリューションを提供します。このソリューションは、共有インスタンス・モデルのあらゆる利点を備えているため、組織のセキュリティが保護されます。Oracle Portal は、アプリケーション・サービス・プロバイダ (ASP) に対しプラットフォームとしてのホスティング・サポートも提供します。

## 変化するパフォーマンス要件に対応するスケーラビリティ

ポータルはアプリケーション・サーバーのインフラを利用するため、Oracle Portal では、小規模な部門のサイトから大企業のサイトまで、インターネット、イントラネットおよびエクストラネットで動作する様々なユーザー・コミュニティをサポートできます。Oracle Portal のスケーラブルなアーキテクチャにより次のことが実現します。

- **高パフォーマンス Java コンテナでの実行。**ポータルのアーキテクチャには、ポータル・リポジトリからのコンテンツの検索、キャッシングの管理、ポータル・ページの構築、完成したページの配布を同時に実行する高度にチューニングされたマルチスレッド・サブレット・エンジンが含まれています。高いスケーラビリティを持つ Oracle の J2EE フレームワーク Oracle J2EE サーバーには、パラレル・ページ・エンジンが配置されているため、最大のパフォーマンスが得られ、プラットフォームに組み込まれたグリッド機能の利点を即座に活用できます。
- **特許取得済 Web キャッシングによるパフォーマンスの向上。**完全統合されたインテリジェント・キャッシュにより、ポータル・ページおよびポートレット・コンテンツをむやみに再生成する必要がなく、最高レベルのパフォーマンスが得られます。Oracle Portal は、Oracle が特許を持つメモリ内キャッシュ・テクノロジー Oracle Web Cache の利点を最大限に活用します。
- **柔軟なデプロイによるハードウェア・コストの削減。**Oracle Application Server のグリッド機能を使用することで、Oracle Portal では使用可能ハードウェア・リソースを最大限に活用して投資することができます。Portal 管理者は、各ポータル・コンポーネント（シングル・サインオン、ポータル・リポジトリ、中間層など）に対して最適なプラットフォームを選択し、パフォーマンスも所有コストも最適化できます。

## 柔軟な管理モデルによる容易な管理

Oracle Portal の管理機能により、1 人の管理者または個別の役割を持った管理者のグループは、次のことを実現できます。

- **管理された委譲によるポータルの管理。**ポータル環境は、事前定義済の管理ページに組み込まれたポートレットを介して管理されます。ページ・レベルのセキュリティに権限を適用することで、ポータル全体のセキュリティを確保しながらポータル管理タスクを委譲できます。
- **シングル・サインオンを使用した効率的なユーザー管理。**シングル・サインオン (SSO) と一元化ユーザー・プロビジョニングにより、Java 規格を厳守しながら、IT サポート費用を大幅に削減しセキュリティを改善します。一元化ユーザー・プロビジョニングは、未知のセキュリティ・ホールがある寄せ集めのセキュリティの代わりにユーザー、ロール、グループおよびアクセス権を単一の定義で保証します。サード・パーティの LDAP ディレクトリは、組込みのメタディレクトリ機能を使用して Oracle Internet Directory と同期できます。

- **Oracle Enterprise Manager (OEM) を使用したポータル・サービスの監視。** Oracle Enterprise Manager (OEM) との統合により、管理者はポータル・インストールの基盤となるサービスを単一の管理コンソールから管理できます。管理者は OEM ユーザー・インターフェースを使用して、データとイベントを監視し、中間層とポータル構成ファイルを保持し、Oracle HTTP サービス、mod\_PL/SQL サービス、Web Cache サービス、サーブレット・エンジン、ポータル・データベース、SSO、ポートレット・プロバイダなどのポータル環境で使用するコンポーネントを監視できます。

## 結論

企業情報ポータル・ソリューションを構築する顧客向けのオプションや製品のソリューションは多数ありますが、そのほとんどは、適切なデプロイに必要な機能、テクノロジーおよび統合の機能を適切に組み合わせて提供することができません。

Oracle Portalの機能セットは、すべてのタイプ、サイズおよびアーキテクチャのポータルなデプロイに最適です。他のポータル製品またはプラットフォームで、これ以上に生産性が高く、完全で、オープンなポータル・ソリューションを提供するものではありません。Oracle Portalの詳細は、<http://portalcenter.oracle.com>または<http://www.oracle.com/portal>のPortalセンターWebサイトを参照してください。



Oracle Portal 10g Release 2 (10.1.4) 製品概要

2006年5月

著者: Pascal Gibert, Bill Lankenau

Oracle Corporation  
World Headquarters  
500 Oracle Parkway  
Redwood Shores, CA 94065  
U.S.A.

海外からのお問合せ窓口:

電話: +1.650.506.7000

ファックス: +1.650.506.7200

[www.oracle.com](http://www.oracle.com)

Copyright © 2006, Oracle. 無断転載を禁ず。

この文書はあくまで参考資料であり、掲載されている情報は予告なしに変更されることがあります。

オラクル社は、本ドキュメントの無謬性を保証しません。また、本ドキュメントは、法律で明示的または暗黙的に記載されているかどうかに関係なく、商品性または特定の目的に対する適合性に関する暗黙の保証や条件を含む一切の保証または条件に制約されません。オラクル社は、本書の内容に関していかなる保証もいたしません。また、本書により、契約上の直接的および間接的義務も発生しません。本書は、事前の書面による承諾を得ることなく、電子的または物理的に、いかなる形式や方法によっても再生または伝送することはできません。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft および Retek は、Oracle Corporation および関連会社の登録商標です。他の製品名は、それぞれの所有者の商標です。